

# 殉教

シリーズ～新約聖書入門～

2017/2/19

# 信仰と聖霊に満ちた人

## • 初代教会に起こった問題

- 「そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。」使徒6:1

## • 選ばれた7人の分配係？

- 「“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう…一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人**ステファノ**と…」6:3-5

## • 更に拡大した教会

- 「こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。」6:7

# 捕らえられたステファノ

- 凄すぎる分配係？

- 「ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。」6:8

- ステファノに議論をふっかけた人々

- 「彼が知恵と“霊”とによって語るのも、歯が立たなかった。」6:10

- 捕らえられ、最高法院にかけられる

- 「わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」6:14

# 最高法院での説教

## • 最高法院での姿

- 「最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。」6:15

## • 最高法院での説教(7:2~53)

- アブラハム:主との契約
  - ヨセフ:遣わされた者の苦悩・解放の計画
  - モーセ:解放者の苦悩・民の無理解
  - 神殿:主は神殿には住まわれない!
- ## • 人々への非難・叱責
- 「あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。」7:52

# 使徒言行録7章54～60節

人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりした。ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

# 殉教したステファノ

- 人々は激しく怒ったが、ステファノはイエス様だけを見つめていた
  - 「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」
- 真実を突きつけられ、耐えられなくなった
  - 「人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ…都の外に引きずり出して石を投げ始めた」
- 十字架のイエス様を思わせる最期
  - 「それから、ひざまずいて、『主よ、この罪を彼らに負わせないでください』と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。」

# 殉教の実

- サウロの回心の布石となる
  - 「証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。」
- 教会の拡大
  - 「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。」8:1
- 「証人」が「殉教」の語源となった
  - 英語の“martyr (マター/殉教)”の語源は、ギリシャ語の“マルトユース(証人)”である

# 殉教の実

- ・サウロの回心の布石となる

- ・「証人たちは、自分の着ている物をサウロとい

- ・教会の復活の命を証言した

- ・「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起  
アの地方に散って行った。」8:1

- ・「証人」が「殉教」の語源となった

- ・英語の“martyr(マター/殉教)”の語源は、  
ギリシャ語の“マルトユース(証人)”である

殉教によってイエス様  
の復活の命を証言した  
《死を恐れない!》



# 私たちにとって「殉教」とは

- 日本は殉教者の国

- 戦国時代～江戸時代:数千～数万人
- 彼らの「死」が無駄になるはずはない!

- 死に至ることはなくても、**信仰の故に犠牲を強いられることはある**

- 損をする・理不尽な目に遭う・仲間はずれ・不公平…

- ステファノの姿勢を見習う

- 天におられるイエス様を見つめ、痛みを甘んじて受け、相手を責めず、主に委ねる＞証言

## 星野富弘さんの言葉

「いのちが一番大切だと思っていたころ、  
生きるのが苦しかった。  
いのちより大切なものがあると知った日、  
生きているのが嬉しかった。」

## ヨハネ福音書12章24節

「はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。  
だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」